

令和元年度 第1回にかほ市地域公共交通活性化協議会
会 議 録

日時：令和元年6月5日（水）13：30～
場所：にかほ市役所 象潟庁舎 大会議室

にかほ市地域公共交通活性化協議会

第1回にかほ市地域公共交通活性化協議会 出席者名簿

区分	No.	所属	職名	氏名	出欠
1号	1	にかほ市	副市長	本田 雅之	○
2号	2	東日本旅客鉄道株式会社 秋田支社 総務部 企画室	開発推進室長	小林 昭宏	△
	3	羽後交通株式会社 営業本部	営業担当次長	平元 久雄	△
	4	合資会社 象潟合同タクシー	事業部長	須藤 智和	○
	5	株式会社三共サービス	運行管理者補助者	吉田 ちづる	△
3号	6	東北運輸局 秋田運輸支局	首席運輸企画専門官	長澤 秀博	○
	7	秋田県 観光文化スポーツ部 交通政策課	地域交通対策監	橋本 裕巳	×
	8	秋田県由利地域振興局 総務企画部	地域企画課長	高橋 新	○
	9	東北地方整備局 秋田河川国道事務所	調査第二課長	長濱谷 和典	△
	10	秋田県由利地域振興局 建設部	次長	鎌田 利彦	○
	11	にかほ市 農林水産建設部	建設課長	竹内 千尋	△
	12	由利本荘警察署	交通課長	佐藤 智紀	○
4号	13	にかほ市自治会長連絡協議会	会長	佐藤 勝彦	×
	14	秋田県生活対策県南・由利ブロック協議会委員	象潟地区	佐々木 正行	○
	15	象潟自治会長連絡協議会	上郷地区	齋藤 正照	○
	16	金浦自治会長連絡協議会	大竹地区	今野 扇一	○
	17	仁賀保地区自治会代表会	小出地区	鈴木 清貴	×
	18	仁賀保地区自治会代表会	釜ヶ台地区	荘司 友勝	○
	19	公募委員		浅野 敏子	○
5号	20	にかほ市商工会	副会長	齊藤 秀雄	○
	21	一般社団法人にかほ市観光協会	会長	辻 正美	○
	22	にかほ市社会福祉協議会	副会長	三島 清	○
	23	にかほ市老人クラブ連合会	会長	佐藤 村六	○
	24	にかほ市地域婦人団体連絡協議会	会長	金子 尚子	○
	25	にかほ市PTA連合会	会長	小川 京子	○
6号	26	秋田県立大学	准教授	嶋崎 真仁	×
7号	27	にかほ市 商工観光部	部長	佐藤 豊弘	×
	28	にかほ市 市民福祉部	部長	阿部 聖子	○
	29	にかほ市 教育委員会	教育次長	齋藤 一樹	○
事務局		にかほ市 企画調整部 まちづくり推進課			

※“△”は、代理出席者

第1回 にかほ市地域公共交通活性化協議会

日 時 令和元年6月5日(水)

午後1時30分～

場 所 にかほ市象潟庁舎 大会議室

次 第

1. 挨拶

2. 議事

報告第1号 平成30年度事業報告および決算報告について

報告第2号 会計監査報告

議案第1号 令和元年度事業計画(案)および予算(案)について

議案第2号 令和2年度地域公共交通確保維持改善計画について

議案第3号 田抓バス停留所の追加設置要望について

第1回にかほ市地域公共交通活性化協議会
会 議 録

(午後1時30分開会)

<p>事務局 (佐藤まちづく り推進課長)</p>	<p>皆様お疲れ様でございます。ご案内の時間になりましたので、ただ今から令和元年度第1回にかほ市地域公共交通活性化協議会を開会致します。</p> <p>始めに、新年度を迎え、人事異動や役員改選等によりお引き受け頂いている委員にも変更がございます。資料1ページの委員名簿をご覧頂きたいと思います。委員名簿の氏名がゴシック体で表記されている方が新たな委員として委嘱をさせて頂いておりますので、この委員名簿にて紹介に代えさせて頂きたいと思います。委嘱状をお席に予め配布させて頂いておりますので、ご確認をお願い致します。</p> <p>次に、本日の委員の出欠状況についてお知らせ致します。資料2ページ出席者名簿をお願いいたします。本日、都合により欠席となっております委員は、名簿3号委員07番「秋田県 観光文化スポーツ部 交通政策課 橋本 地域交通対策監」、4号委員 13番「にかほ市自治会長連絡協議会 大橋 様」、同じく 17番「仁賀保地区自治会長連絡協議会 小出地区 鈴木 様」、6号委員 26番「秋田県立大学 島崎 准教授」、7号委員 27番「にかほ市商工観光部 佐藤・部長」の4名が欠席となっております。また、代理出席されております方が、2号委員 02番「東日本旅客鉄道 株式会社 秋田支社 様」、同じく03番「羽後交通 株式会社 様」、05番「株式会社 三共サービス様」、3号委員 09番「東北地方整備局 秋田河川国道事務所 様」、11番「にかほ市農林水産建設部 様」については、名簿記載のとおり、それぞれ代理出席となっております。また、2号委員04番「合資会社 象潟合同タクシー 様」は遅れるという連絡がありましたので、このあと出席されると思います。委員の皆様のご紹介については、資料の3ページに記載の「席次表」をもって、ご紹介とさせていただきますので、ご了承願います。</p> <p>それでは、開会にあたりまして会長であります本田にかほ市副市長がご挨拶申し上げます。</p>
<p>本田会長</p>	<p>改めまして、皆さん、こんにちは。副市長の本田と申します。本日は、お忙しい中、ご出席を頂きまして誠にありがとうございます。また、日頃から市政の運営、特に交通行政につきまして、深いご理解とご協力を頂いておりますことに感謝を申し上げます。それから、今ご紹介頂きましたとおり人事異動等において委員にご就任頂きました皆様には、改めて熱くお礼を申し上げる次第でございます。</p> <p>さて、皆さんご承知のことと思いますが、本市の公共交通につきましては、鉄道と路線バス、コミュニティバス、そしてタクシーという構成となっております。これまで、各交通事業者の皆さん、それからご参集の皆さん、市民の皆さんのご理解とご協力を頂きながら、市と</p>

	<p>しても公共交通の充実に努めて参ったところであります。最近の状況を見てみますと、ご案内のとおり人口減少、少子高齢化等の進展により、公共交通の利用者が減少しています。本当は増えていって欲しいところですが、なかなか伸びないという状況でございます。さらに色々な情報を聞きますと、各運送事業者のドライバーの確保についても大変苦勞しておられるというようなことも聞いております。そういうところでも大変難儀なご時世かなと思っております。</p> <p>一方で、連日のように高齢者の方の交通事故が新聞、テレビ等を賑わせております。そういった方々につきましては、できれば早い時期に運転免許を返納して頂き、公共交通に切り替えて頂くということを願うところではございますが、まだまだ自動車社会、マイカー社会の本県、本市というところは変わっていないと思います。こうした高齢者の方々や運転免許を持たない方、高校生、中学生等の通勤、通学、それから通院ですとか、買い物、そういったものの社会生活をしていくうえで、そしてまちづくりといった観点からも公共交通をどのようにしていくか、どうやって確保するかということは大変重要な要素であると考えております。</p> <p>2020年の東京オリンピックに向け全国各地では、インバウンド事業を増やしましょうということで色々な交通形態が研究されておりますし、また無人運転といったものも研究されているようですが、にかほ市には、にかほ市の地域的事務ですとか、社会的条件に合った1番適合した交通環境といったものを整備していかなければならないと思っております。</p> <p>本日は、そういったものを含め、にかほ市の公共交通について一層充実強化を図るために皆様から忌憚のないご意見を頂ければ、大変幸いです。本日はどうぞよろしくお願い致します。</p>
<p>事務局 (佐藤まちづくり推進課長)</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>これからは議事の審議となりますが、規約第9条第1項の規定により、会長が議長となりますので、このあとの進行につきましては、会長よりお願い致します。</p>
<p>本田会長</p>	<p>それでは、失礼ながら座って進行させて頂きます。私がしばらく議長を務めさせて頂きますので、どうぞご協力をよろしくお願い致します。</p> <p>まず始めに、本日の会議ですが、出席頂いている議員の人数は現時点で23名となっております。過半数に達しておりますので、規約第9条第2項により、会議は成立しておりますことをご報告致します。</p> <p>それでは議事に入ります。2の議事の報告第1号「平成30年度事業報告および決算報告について」事務局より説明をお願い致します。</p>
<p>事務局(まちづくり推進課越川主査)</p>	<p>事務局説明</p>
<p>本田会長</p>	<p>ありがとうございました。関連がございますので、報告の第2号会</p>

	計監査報告についても監事の方からご報告頂ければと思いますので よろしくお願ひ致します。
佐々木委員	会計監査報告
本田会長	<p>ありがとうございます。それでは、ただ今の報告の第1号と第2号について、ご質問やご意見、確認事項等ございましたらお願ひ致します。</p> <p>報告についてはよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、第1号、第2号については、ご承認と言いますか、ご確認頂いたということで、続きまして議案の方に移りたいと思います。</p> <p>まずは、議案の第1号「令和元年度事業計画(案)および予算(案)について」事務局の説明をお願ひ致します。</p>
事務局(まちづくり推進課越川主査)	事務局説明
本田会長	<p>ありがとうございます。それでは、事務局から説明がございました議案第1号「事業計画案および収支計画予算書について」ご意見、ご質問、確認事項等ございましたら、何なりと手を挙げて発言をよろしくお願ひ致します。</p>
齋藤副会長	<p>今、令和元年度の予算書を見ていました。それで、昨年と変わって利用者アンケート調査ということで21万4千円計上となっていますよね。それで、人件費と消耗品のだいたいの内容、それから人件費はどこにかかるのか、業者がやるのかそのへんはどのようなのですか。</p>
事務局(まちづくり推進課越川主査)	<p>こちらの利用者アンケートは、今の予定としては、アルバイトをお願ひして、ただアンケートを配るのではなく、実際にコミュニティバスに乗車して、その場で聞き取り等の調査をして頂きます。その方が、市民や利用者のより具体的な意見を聞くことが出来ると思います、そのアルバイトの雇用の人件費約30日程度で、30日間毎日というわけではないですが、何日か日を分けての聞き取り調査、プラス集計等の関係の人件費を考えております。それから、そのアンケートの用紙等で3万円程度を考えています。以上です。</p>
齋藤副会長	<p>分かりました。それでは、アンケートの実施時期はいつ頃からいつ頃までを予定していますか。</p>
事務局(まちづくり推進課越川主査)	<p>今の予定の事業計画では、8月上旬を考えています。ちょうど8月上旬ですとまだ夏休みの時期ですので、この時期は、平日だけの運行しかない路線でも夏休みなので小中学生が利用するのかなと思います、8月上旬から9月上旬くらいまで1か月くらいの中で調査したいと今は考えております。</p>
齋藤副会長	<p>では、アンケートに関して、どのようなアンケートを取るのか、そのへんも今模索中かと思いますが、だいたいどのようなところについてアンケートするのか教えて頂きたい。</p>

事務局(まちづくり推進課越川主査)	アンケート調査の内容は、これから検討する予定であります。まだ具体的には考えていませんが、他の同じようなアンケート調査を行っている市町村のアンケート内容を集め、この地域に合った項目を参考にしながら、アンケートの項目を考えていきたいと思っております。もし、こういう項目があったら良いのではないかと案がありましたら教えて頂きたいです。
齋藤副会長	だいたい分かりました。では、期待しておりますのでよろしくお願い致します。
本田会長	はい、どうぞ。
鎌田委員	今のコミュニティバスの利用者アンケートについて、追加で確認したいのですが、今の説明の中で実際のアンケートの対象者は実際にコミュニティバスを利用されている人のみというようなことでした。今、高齢化社会ということで、いつ免許証を返納して公共交通に切り替えるかという人がいっぱいいるのではないかと考えています。そういった方の意見が、なんとなく反映されないのかなと思うので、対象者をもう少し厳選したほうが良いのではないかと思います。利用者のみではなく、利用していないけれどもこれから利用するであろうという人もターゲットにした方が、これからの公共交通の移動ということで幅広い意見がもらえるのではないかと私は思いますが、いかがでしょうか。
事務局(まちづくり推進課越川主査)	現時点ではバスの利用者を対象と考えていましたが、今のご意見を踏まえて、利用していない方の意見もアンケートを集めるように工夫したいと思います。免許返納者は特に1番公共交通に利用を切り替えたいことだと思いますので、そちらの免許返納者にもアンケートを配れるように工夫して参りたいと思います。
事務局(佐藤まちづくり推進課長)	<p>補足になりますが、利用していない地域住民の方々のアンケートについては、ちょっと時間が経っていますが、平成28年度に実施しております。その時にも利用者については、実際に調査員が車両に乗り込み、聞き取りを行ってりましたが、その期間が2日程度しか取れなかったものですから、今回期間を長めに取ろうかというところです。昨年度から75歳以上の方については、無料乗車を実施しており、高齢者の方の利用者は増えてきている状況であります。そういった方々の実際に利用されている状況をもう少し深く聞き取りをしたいというところからのアンケート調査の実施を考えておりました。今頂いたご意見ももう少し考慮しながら調査のやり方を考えて参りたいと思います。</p> <p>先程、事業計画の中でも担当の者が説明致しましたが、ある程度のアンケートの内容が決まりましたら、皆様の方へ書面協議といった形ですけれども一度お示ししたうえで、アンケート調査を実施したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。</p>
齋藤副会長	もう1つ質問ですが、このバスの乗り方教室は毎年やるのですか。
事務局(まちづくり)	はい、28年度に一度行っており、昨年度の30年度に再び実施し

推進課越川主査)	ました。30年度に保育園にアンケートを取りましたところ好評でしたので、令和元年度も計画をさせて頂きました。
齋藤副会長	もう1つ、公共交通マップの印刷は時刻表が変わらなければ、やる必要があるか、ないか。毎年、時間に変更になれば、その変更の時間のマップを作らなければならないと思いますが、そうすると年1回は時刻表が変わるということでしょうか。
事務局(まちづくり推進課越川主査)	基本的にJR様と羽後交通様の時刻表は変更があると思いますし、30年度は2千部の印刷で公共施設等に配布していましたが、在庫が少なくなりますので、いずれ補充という形で毎年印刷は考えております。
齋藤副会長	羽後交通さんは羽後交通さん独自であるのではないですか。羽後交通さんのものも含めてやるということでしょう。羽後交通さんも時刻表が変われば、独自でもってそれをやっているのですよね。
事務局(まちづくり推進課越川主査)	そうですね、羽後交通さんの方でも独自で時刻表は作っていますし、公共交通マップの時刻表につきましては、羽後交通さんもJRさんにもかほ市部分の時刻表を載せております。公共交通マップを作った際に電車や路線バスの時刻表も一緒に載っていて見やすいということで、一緒に公共交通マップには電車や路線バスの時刻表も記載しております。
齋藤副会長	これは全世帯に配るのですか。
事務局(まちづくり推進課越川主査)	1番番最初に作った平成29年度につきましては、全世帯に配布致しました。
齋藤副会長	今後は？
事務局(まちづくり推進課越川主査)	30年度に関しては、利用者も全世帯ではないので全世帯には配付していません。
齋藤副会長	誰が利用者かわからないじゃないですか。全世帯にやるのであれば良いが、バスに乗る人、乗らない人関係なく誰がどのようにして分けるのか。
事務局(まちづくり推進課越川主査)	無料パスの申請に来た方には、申請時に配布しておりますし、ホームページでも公共交通マップは、見ることが出来ます。各公共施設や観光施設等にも置いておりますので、乗りたいと思えば、最寄りの施設等でマップを手にする事は出来るようにしております。
齋藤副会長	全世帯にではなく、置いて置くということですね。免許返納者にはこれを渡すということでもよろしいですね。分かりました。
本田会長	よろしいでしょうか。他に何か今の関連でも結構ですし、新しいご意見でも結構ですがありますか。
長澤委員	秋田運輸支局の長澤でございます。関連で、アンケート調査について、直接ヒアリングすることは良いことだと思うので、ぜひとも利用されている方の生の声を十分引き出して頂いて、それをまとめて頂きたいと思っております。また、新たなバス利用者の創出については、その結

	<p>果を踏まえて利用する可能性のある地域にアンケートというよりは、直接話を聞きに行くとか、そういった形でする方法もあるのかなと、ぜひ、ご検討頂ければと思います。</p> <p>また、アンケートを取るときにバスマップについても、どういったバスマップが良いですかということも含めて聞いて頂ければ、次のバスマップを作製するときの参考になると思いますので、そういったところも含めてご検討頂ければありがたいです。</p>
本田会長	<p>ありがとうございます。事務局でも、ご意見を踏まえて、アンケートの方法ですとか、その後の活用ですとか、検討頂きたいと思ます。</p> <p>他に関連も含めてよろしいでしょうか。</p> <p>私から1つ。前回平成28年度もアンケートを実施しているということですが、今回何件くらいを想定しているということがあれば、アンケート枚数というか、回答数ですとか、または28年度はこのくらいだったというものがあれば。今回は30日間の日数で予定しているということが良いですか。</p>
事務局(まちづくり推進課越川主査)	<p>30日間全てではないですが、日にちを決めて各路線にアルバイトの方から乗って頂いて、どれだけ日々利用者がいるのかということもありますが、幅広い年代の方に調査したいと思ます。具体的に件数までは、まだ決めておりませんでした。</p>
本田会長	<p>はい、分かりました。他にございますか。</p>
長濱谷委員	<p>秋田河川国道事務所の長濱谷と申します。これは参考になるか全く分かりませんが、昨年新聞報道だったと思ますが、国際教養大学とアメリカのGoogleが提携して、公共交通のバスの時間ですとか、行き先ですとかをスマホに入れると、全部を検索出来るシステムが昨年10月か11月に全面的に出来るようになったと。それで、県内の主要バス業者さん、中央交通さん、羽後交通さん、秋北バスさんで利用できるというものが確かあったと思ます。そういったものもPRするとか、これと併せていけば、これも利用促進に繋がっていくのではないと思ます。すみません、1つのご提案ではないはすけれどもそういうのもございましたので、参考的な意見でした。</p>
事務局(まちづくり推進課越川主査)	<p>国際教養大学の豊田教授からにかほ市も他のバスと同じようにGoogleマップに検索出来るように作成して頂き、にかほ市のコミュニティバスもグーグルマップで路線検索等出来るようになっております。アンケートの際には、アンケートだけではなく、今お話あったようにPRも出来れば良いと思ましたので、ご意見ありがとうございます。</p>
本田会長	<p>ありがとうございます。他によろしいでしょうか。</p> <p>他にないようはすので、議案第1号「令和元年度事業計画(案)および予算(案)について」は、今頂いたご意見を参考に進めるということでご承認頂いたということによろしいでしょうか。</p>
委員	<p>はい。</p>

本田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>そうしましたら、議案の第2号「令和2年度地域公共交通確保維持改善計画について」事務局から説明をお願い致します。</p>
事務局(まちづくり推進課越川主査)	事務局説明
本田会長	<p>ありがとうございます。それでは、ただ今の説明について、ご意見、ご質問等ございましたら、よろしくお願ひ致します。</p> <p>よろしいですか。何か確認事項等でもけっこうでございますから。特にございませんでしょうか。もしなければ、このあとまたお気づきの点があれば、事務局に申し付けて頂くということにして、議案の第2号令和2年度維持改善計画についてはこれをベースとして進めるということで了解頂いたということにしたいと思ひます。よろしいでしょうか。</p>
委員	はい。
本田会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは続きまして、議案の第3号「田抓バス停留所の追加設置要望について」事務局から説明をお願い致します。</p>
事務局(まちづくり推進課越川主査)	事務局説明
本田会長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>今、説明がございましたが、現在ある幹線沿いといいますか、大きな道路沿いにある既存の経路にあるバス停に加え、集落内に1か所バス停を設けて欲しいという地域からの要望でした。それに伴って、当然運行経路も飛び出たような黄色の路線になりますと。この要望について事務局としては、経路の複雑化、それから運行時間が伸びるといったところで、難しい問題ですが要望にはそえないという説明であると理解しました。</p> <p>これについて、皆様からご意見、ご質問等ございましたらお願ひしたいと思ひます。</p> <p>集落の要望は切実なものもあろうかと思ひますが、運行する側との兼ね合いでなかなか難しいかと思ひます。ご意見、ご要望あれば、この地域はこうだとか、どんなことでもけっこうですから発言があればよろしくお願ひしたいと思ひます。</p>
佐藤委員 (老人クラブ連合会)	<p>ただ今の説明により、事務局案としては現状維持というような説明がありましたが、集落の要望に対して黄色い路線で入った場合、どのくらいの運行時間の延長になるのか。また、最終、終点に行った時点で、そのまま潮風公園に待機している姿を見るわけですが、そういう点も踏まえて、本当に駄目なのかというところをもう一度考えて頂きたいと思っております。</p>
本田会長	はい、ただ今のご意見、ご質問ですが、この黄色の路線にすること

	<p>によって、だいたい何分くらいの時間の延長になるのか、終点というか、最後のところの待機場所でのどのくらいの時間伸びる、縮むということがあれば、事務局で説明をお願いします。</p>
事務局(まちづくり推進課越川主査)	<p>この黄色い部分は、車で走って測りました。100メートル単位のメーターになりますので、細かい数字ではないですが、約800メートル程度です。新しく設置した場合、乗降等なければ1分程度で回することは可能な距離です。しかしながら乗降がありますと、2分程度かかると思います。公園での休息等につきましては、運行事業者さんの雇用時間、休息時間の関係もありますので、もしよろしければ象潟合同さんから説明を頂ければと思います。</p>
本田会長	<p>よろしいでしょうか。そうしましたら休息時間等については、補足があればお願いしたいと思います。</p>
須藤委員	<p>今、ご紹介頂きました象潟合同タクシーの須藤と申します。 今、このコミュニティバスは地域の住民の足として使って頂いて、地域の細かい所に入っていければとたしかに私も思います。ただ、今の運送事業そのものの法律というものがあり、4時間に対して最低30分の休憩を取りなさいという決まりになっているのです。従いまして、今の運送の時刻でいきますと、運行、運行の間、30分の休憩というものを潮風公園の方で取らせて頂いているということになります。ドライバーが休憩しないで走りなさいとは、私どもは当然決して言えないのです。地域の皆さんにご協力頂きながら運行している状況であります。安全第一ですので、そのへんはご理解頂けたらと思います。</p>
本田会長	<p>ありがとうございます。今のお話ですと、4時間に対して30分の休憩は、法定であるということ、安全第一の運行ということは、結局あまり内側に細かく入って時間を延長するよりは、現状でという意見で理解してもよろしいでしょうか</p>
須藤委員	<p>はい。</p>
本田会長	<p>というご意見でしたが、よろしいでしょうか。それとも他に何か。</p>
齋藤副会長	<p>要するに、田抓さんの町内でどうしても欲しいということで陳情が来ているわけでしょ。その陳情内容が、どういう陳情内容なのか、内容によっては話がまた違って来る。お年寄りさんがいっぱい集まるとそこまで来るのが大変だということになれば、コミュニティバスは弱者の味方ということで路線変更は大いにやって良いと思います。要するに、今まで集まっていた所に集まらないから、なるべくお年寄りに優しい運行をやれば、コミュニティバスというのは皆さんから喜ばれるものだと思います。陳情内容に関しては、1人、2人なのか、10人もいたらどうしても行かざるをえないでしょう。そのへんも重々お考えを入れながら、たしかに運行業務であればうちも会社をやっているから4時間もやれば、休憩時間を与えなければならないけれども、運行业者さんも1番よく分かると思う。集まる場所、集まらない場所、素通りの場所、そのへんをもう少し切磋して頂ければ、融通</p>

	<p>が効くのかなと私は思います。そのへんは、運行会社さんへは言いませんので事務局の方で答弁をお願い致します。</p>
事務局(まちづくり推進課越川主査)	<p>田抓集落さんの地区要望の内容は、高齢者は歩行が大変なので、なるべく近い所にバス停を設置してもらいたいということでした。そうすれば、高齢者の方も利用しやすくなるということで、田抓集落さんの気持ちも高齢者の方の気持ちも十分わかります。</p> <p>しかしながら、同じような状況のバス停がにかほ市内には何カ所かあります。例えばここを通した場合に、じゃあうちの方も、じゃあこっちもとなった場合、複数集落内に入り込んで走らなければいけない状況になってきます。そうすると、時間が田抓さんだけで留まらなくなり、さらに長くなって路線も複雑化してくることも懸念されます。今だいたい各路線 1 便 1 時間前後の運行になっていますが、それも 1 便の運航時間としては長いと感じている部分があります。また、田抓バス停は、平成 30 年の 1 月から 12 月の中で、院内・小出線と大竹線と釜ヶ台線の 3 路線が走っています。路線によって、利用者が変わりますが、だいたいの利用者の状況を見ますと、院内・小出線で年間 10 人程度、大竹線で年間 128 人、釜ヶ台線で 44 人となります。利用者の少ない院内・小出線は 1 か月あたり 0.8 人で、1 番多い大竹線は 1 か月 10.6 人、釜ヶ台線は 1 か月 3.6 人というような感じです。3 路線合計すると 1 日あたりだいたい 0.7 人で、数字だけ見てもそのような状況であります。各集落利用者がそんなに多いわけでもありませんし、高齢者の方の気持ちもすごく分かりますが、もしできれば 5 分程度であれば、歩いてバス停まで来て頂ければという部分もありますので、事務局としては、現状維持でいけないかと考えておりました。</p>
齋藤副会長	<p>それなら、分かりました。利用者に聞けば当然このような形になる。いっぱいいるのかなと思って、それだったら新しいバス停も増やすのかなと。乗らない人達から陳情来て、そこでバス止めることは出来ないかと思っておりますので。</p>
本田会長	<p>はい、ということですが他によろしいでしょうか。これについては、まずは事務局の案で現状維持を取ると。ただ大変重要な要望であるし、今後色々な所で同じような要望も出る可能性がありますので、引き続きの検討はしていきたいと思っております。今回は現状維持で進めるということにしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p>
	<p>はい。</p>
本田会長	<p>はい、ありがとうございます。それでは、議案第 3 号については、現状維持を前提としたいと思います。</p> <p>それでは、議案第 3 号まで終わりました。本日の議事については、予定されていたものについては以上であります。</p> <p>続きまして、その他として、せっかくの機会でありますので各公共交通事業者の皆さんから最近の状況、話題等お話頂きたいと思っております。</p> <p>それでは、大変恐縮ですが、私の方からご指名させて頂くというこ</p>

	<p>とで、羽後交通さんから話題提供等ございましたらよろしくお願い致します。</p>
<p>羽後交通(平元代理)</p>	<p>羽後交通の平元でございます。私の方からは、当社の乗り合いバスの現状とにかほ市さんが関係する路線の状況について、実績表をご覧頂きながら説明させて頂きたいと思っております。</p> <p>まず、当社のバス事業について、やはりマイカーの普及や過疎化、少子化により、昭和44年をピークに2,422万人の乗車人員が平成30年度には144万人になり、17分の1まで減少しております。数字をもう1回言います。昭和44年のピーク時2,422万人、30年度144万人です。17分の1に減少しているということでございます。また、運送収入の方では、昭和56年の29億1,290万円から5億7,700万円になり、5分の1になっているというのが実情でございます。このような状況の中で、当社路線の8割以上が赤字路線となっており、多くの路線で公的補助金、また自社負担金でなんとか路線を維持しているような状況でございます。</p> <p>それでは、にかほ市さんではどのような状況になっているかというところ、30補助年度の実績と4月単月実績、前年対比表をご覧頂きながら説明をさせていただきます。</p> <p>お手元の一番大きい資料をご覧ください。平成30年補助年度、29年10月から30年9月までと、通常は年度と言いますと4月から3月ですが、補助金の場合は、10月から9月までというのが補助期間となっております。にかほ市さんの場合は、3路線10系統ございます。一番上の方が本荘～象潟線で4系統ございます。一番上が国庫間1、国庫間3、県単1、県単6で、横の方はずっと見て頂きますと輸送人員A、実際走行距離B、キロあたり費用となっており、キロあたり費用216円24銭、この数字が1キロあたり走るのにかかる費用でございます。そして水色の部分が収入関係です。運送収入、運送雑収、営業外収益、この合計金額が経常収益ということになります。黄色の部分が計上損益になります。赤、三角が赤字、黒が黒字ということです。それから緑の部分は国、県、市町村の補助金です。K、Jというところが補助金の合計額、そして最後に当社負担額となっております。一番上の本荘～象潟線の赤い部分の合計額、経常費用の合計額です。1億297万9,281円、経常収益3,538万63円、経常損益では△6,759万9,218円の損失でございます。それに補助金を加減して、残りが当社負担額582万2,218円ということになっております。</p> <p>次に小砂川線、中段です。こちらの計上費用が1,111万8,972円、経常収益が646万8,244円、計上損益は赤字で465万728円、補助金が465万で、当社負担額が728円ということになっております。一番下が仁賀保高校線となっておりますので、こちらの方は2系統とも黒字路線です。仁賀保高校線のように短くてたくさん乗って頂ける路線は黒字となります。長い距離を走る路線は、どうしても赤字傾向があります。ということで、国庫間1、国庫間3とあり、こちらは輸送量が</p>

	<p>15人以上いなければ国庫適用にならないということがございます。平均乗車密度に年間運行回数の1日平均便数をかけ算して、15人以上になるかというところです。ポケット時刻表の77ページと78ページをご覧頂きたいと思います。こちらが本荘～象潟線のダイヤでございます。この平均乗車密度にして、これくらいの便数を走らないと15人以上にならないと、乗っていないことが分かっているにもかかわらず国庫にのせる為が無理をして走っているということが実情でございます。</p> <p>そこでちょうど秋田運輸支局の長澤専門官さんがいらっしゃっておりますので、私から質問させていただきます。国庫補助制度が全国一律で輸送量15人以上の縛りが都会のバス会社も地方のバス会社も同じであるということに些か疑問を感じているところですが、地方のバス会社については、もう少しハードルを下げて頂ければ幹線系統でもある程度は持続できるのかなと思っておりますけれども専門官のご意見をお願いしたいと思っております。</p>
長澤委員	<p>ご質問頂き、ありがとうございます。幹線系統につきましては、たしかに組む地域によって差を設けていない。一方、タクシーとかなんかであれば、当然地域によって差を設けている。基準が当然違って、補助というのはタクシーにはないのですが、基準を分けている実態ということがあります。一方では、例えば被災地では基準を緩和するといったことはやらせて頂いており、福島や宮城といったところの路線に関しては、被災地特例といったところで一部緩和して補助を入れています。ただ、ご指摘のとおり、その区分というのは一切設けていない。都会であっても同じように赤字になっているところが結構あり、同じようにバス会社なら言われているところがあります。地方からも言われていますが、一方では東京で走っているバス会社からも言われている路線というのが実はあります。</p> <p>結論から言いますと、国交省がやっている基準としてはどんどんハードルを上げようとしているのが実態であります。要は補助をもらうということではなく、補助をもらわなくてもよいという方法に、どうやって取り組んで行くのかといったところを、国土交通省さんが事業者さんと一緒に作っていくのですかと言われてきているのが実態です。長いところで赤字がそんなに続くのであれば、見直しをなさいということを厳しく財務の方から言われているのが実態であります。とは言え、ご指摘のとおり、東北と都会型では明らかに違いますので、そういったところから補助基準というのは区分を設けてやることは出来るのではないかとといったことはご意見ということで東北運輸局を通じて本社まで言って下さいということは言わせて頂きたいと思っております。</p>
羽後交通(平元代理)	<p>はい、ありがとうございます。ハードルを上げるのではなく、下げたいと切に思います。よろしく申し上げます。</p> <p>このような路線バスを取り巻く環境の中で、ただ今申し上げさせて頂きましたけれども国交省ではこのままでは幹線を走る路線でさえ</p>

も維持できなくなるということで各バス会社に生産性向上に向けた取り組みを計画して実施し、結果を報告するように義務付けているということでございます。

以前にも紹介させて頂きましたけれども当社が行っている生産性向上に向けた取り組みをご紹介させていただきます。こちらの1番上でございます新聞の切り抜きですが、貨客混載でございます。お客様と荷物を一緒に運び、トラック事業者の人件費、経費を削減し、バス事業者の増収を狙った取り組みでございます。昨年2月に日本郵便様、それから佐川急便様の2社と実証実験をスタートし、今年2月に1年間の実証事件を経て、日本郵便様と正式に契約を結び、本荘～象潟線において本格輸送をしております。新規の路線としては、田沢湖の玉川線において佐川急便様からぜひお願いしたいというオファーが来ており、現在鋭意検討中でございます。

次に路線バスで行こうシリーズでございます。当社のバス往復乗車券と食事、入浴券がセットになったパック乗車券でございます。チラシは、道の駅象潟ねむの丘でございます。30年度の売上は26枚3万2千円と残念な結果でございますが、根気強くPRを続けていきたいと思っております。ねむの丘様以外にも大内ぽぽろっこ、東由利湯楽里、それから横手駅前温泉ゆうゆうプラザ、このように企画しております。ゆうゆうプラザの売り上げが1番多く、30年度では198枚26万1千円程の売り上げがございまして、前年比130%と売り上げを伸ばしております。

次に、高校生向けスマホ定期でございます。鶯色のチラシでございますが、高校生のスマホ保有率が95%を超えているというところに目を付けた日本初の試みでございます。証明書や申込書等を窓口を持って行かなくてもよく、24時間いつでも購入可能であるということ、バスを降りる時にスマホ画面を見せるだけなので、手軽でファッション性があるということで大変ご好評頂いております。ちなみに30年度の実績は、451件466万7,900円の売り上げがあり、大半が横手高校生でございます。ちなみに仁賀保高校の実績は、24件13万6,500円、まだまだ伸び白があるような気がしますので、PRを続けていきたいと思っております。

最後に高速バスですが、机の上に缶バッジのようなものがございますが裏が鏡になっております。たまには自分をしっかり見つめる意味で自宅に持ち帰って頂ければと思います。4月1日より、ドリーム鳥海からエクスプレス鳥海に名前が変わっており、隣にJRさんがありますがJRバスさんから関東バスというところが変わっております。チラシの下の左側に白っぽいかわいらしいバスがあります。このバスが1日おきにここを走っています。最後になりますが、1月番後ろが本荘～仙台線のチラシでございます。下の方にバスの写真がございまして、4社で共同運行をしております。

それから6月1日より運賃改定があり、利用の際はお間違いのない

	<p>ようにご乗車を願います。皆様には路線バス、高速バス問わず、ご利用頂きまして今後とも羽後交通をよろしくお願い致します。私からは以上でございます。ありがとうございました。</p>
<p>本田会長</p>	<p>大変ありがとうございました。路線バスが相当厳しいという中、ハードルがなかなか下がらない状況ですけれども引き続きハードルを下げて頂けるように私からもよろしくお願ひしたいと思ひます。それから道の駅とのタイアップ運行をしているということで道の駅象潟ねむの丘を管理する立場としても御礼申し上げたいと思ひます。大変ありがとうございました。</p> <p>何かせつかくの機会ですから羽後交通さんのただ今の報告に質問等あれば、よろしいでしょうか。皆さんの積極的なご活用をよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは続きまして、お隣にいきましてJR秋田支社様からご報告等ございましたらよろしくお願ひ致します。</p>
<p>小林委員</p>	<p>JR秋田支社企画室の小林と申します。私のほうから最近の状況と言ひますか、ゴールデンウィーク時の状況、イベント列車等の情報を資料はないですが、お話だけで恐縮ですが述べさせて頂きたいと思ひます。</p> <p>先程、羽後交通さんからもありますが全体の利用者としては、各路線やはり毎年減ってきております。こまちはなんとか頑張っておりますが、奥羽線、羽越線、北上線、男鹿線、五能線にしろ、乗車人数というものは少子高齢化の影響をまろに受けてしまうということになっておりますけれども、なんとか県内の色々なものを駆使しながら少しでも乗車人数に結び付けていきたいと考えております。</p> <p>最近の情報と致しましては、ゴールデンウィークの期間ということで、新聞等でも報道されている内容ではありますがお話させていただきます。今年のゴールデンウィークは10日間ということで休みが続きました。その影響もあって、やはり観光等で列車を利用するお客様は大変多かったと感じております。JR東日本全体としましては、新幹線は16%増と前年に比べて116%ということで、全体も16%増しでゴールデンウィーク期間中は利用客が増えております。また、秋田新幹線の部分でも14%増しということで、利用客がかなり伸びております。羽越線は、21%増しということで前年と比べますと今年の方が天候の部分もあったと思ひますが、かなり多かったと思ひます。</p> <p>今度は夏の臨時列車も5月17日にプレスさせて頂いております。期間中秋田新幹線を臨時で319本増発するというごさいです。お盆期間は8月9日から18日までですが、130本程増発すると計画されております。羽越線の関係で、新潟から走ってくるキラキラ羽越を秋田まで基本運転ということで7月12日から15日、9月13日から16日と期間限定ではあります、取り組みをしていきたいと考えております。</p> <p>また、秋田支社として、象潟の牡蠣を食べるということで日帰りの</p>

	<p>旅も計画しており、6月29日 TDK の歴史未来館や象潟のねむの丘に寄り、牡蠣を食べて帰るといったイベント列車を計画しております。そちらの方でも集客を図っていきたくて思っております。</p> <p>また、今年の秋田支社の実行計画を作っており、県南や羽越線エリアの素材を掘り起こして、そちらの方を広くPRしようとしていきたくて思っておりますし、商品化できるものの商品化を含めて羽越線の方にお客さんを運んで来るような取り組みをこれから徐々に作っていきたくて思っております。中身が確定した段階で、後日ではありますけれども発表させて頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。私の方からは以上になります。</p>
本田会長	<p>大変ありがとうございました。JR様にもねむの丘タイアップ企画して頂けるということで、重ねてお礼を申し上げます。それから、昨年12月上浜駅舎の建て替えを行って頂きました。ありがとうございました。現在、市で公衆トイレの建設を進めており、これについてはお盆頃完成する見込みと聞いております。今後ともどうぞよろしくお願いしたいと思います。</p> <p>JR様にも何かご意見、ご質問等ございましたら、よろしいでしょうか。</p>
辻委員	<p>にかほ市観光協会の辻です。にかほ市の花火を例年8月16日にやっていたのですが、今年は大曲の花火の1週間前24日に新しく名前も変えて内容もガラリと変えて行う計画をしております。できれば、にかほ市外からもお客さんを呼びたいです。何とかご協力をお願いしたい。臨時列車とは言いませんが、最終に間に合うような電車があれば、増発、増結というところを検討して頂ければと思います。一応、象潟の駅長にはそれとなく相談はしています。</p>
小林委員	<p>では、そちらの方からお話はあがっているということでよろしいですね。分かりました。そのへんの方は確認して、どのようなことが出来るのか、これから検討させて頂くことになろうかと思っております。</p>
辻委員	<p>よろしくお願い致します。</p>
小林委員	<p>ありがとうございます。</p>
本田会長	<p>あとで情報提供と言いますか、情報を出して頂ければと思います。JR様にもよろしくご検討頂ければと思います。</p>
辻委員、小林委員	<p>はい。</p>
本田会長	<p>それでは、次に象潟合同タクシー様から何かございましたらよろしくお願い致します。</p>
須藤委員	<p>弊社は、コミュニティバスを4路線運行させて頂いております。ですが、地域的な冬道というか道路状況等で運行時間の定時に間に合わないという苦情を多々頂いております。弊社と致しまして、ご要望を改善するという意味でうちのバスに付いている無線機を使い、バスロケーションシステムというものを導入しようかなという計画で動いております。このバスロケーションシステムというものは、市民のお</p>

	<p>お客様が自分のいる場所で、自分が乗りたいバスが何分遅れているのか、定時で動いているのか、バスが今どこにいるというのが自分の目で見えるというようなシステムでございまして、こちらを導入しようかと検討段階で進んでいます。早ければ今年度中に何とか動かしていければと思っております。ただ、うちの方で4路線動いていますが、その他三共さんの方で運行しております1路線の方の絡みもありますので、こちらの協議会の方で話を揉んで頂いて、できれば全路線一緒に動かせればなと思っております</p>
<p>本田会長</p>	<p>ありがとうございます。コミバスにつきましては、市民の足としてだけではなく、観光の方ですとか、ジオパークの関係で色々利用されているところではありますので、利用者増にサービスの向上に色々ご尽力頂ければと思います。</p> <p>続きまして、三共サービス様から何か報告があればよろしくお願ひしたいと思います。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>三共サービスでは大竹線の運行をしていますので、大竹線について簡単にお話させて頂ければと思います。</p> <p>大竹線の利用者さんの人数ですが、約2年前の平成29年の時の1か月の平均の利用者人数はだいたい300人から400人でした。30年の7月からはお子さんとお年寄りの方は無料になってからは1か月の平均の利用者人数はだいたい700人くらいまで増加しました。その中でも特に増加したのが、はまなすまで行かれるお客様がけっこう増加しました。そのはまなすまでに行く利用者の方から運転手に言われたことがあったのですが、はまなすから象潟方面に行きたいという方がけっこういらっしゃるって、現在羽後交通さんのバスしか、はまなすから直接行くルートが無いということで、コミュニティバスでも運行をして頂ければという要望が多数あるようでした。</p> <p>現在大竹線は平日のみの運行となっておりますので、土日祝日運休なのですが、利用者の方からは土曜日と祝日だけでも運行して頂けないかというお声が多数あるようで、その中でも病院のやっている土曜日の午前中だけでもやって頂ければという方が多いようでした。以上です。</p>
<p>本田会長</p>	<p>ありがとうございます。三共様にも当市の関連施設でありますはまなすに多くの人を運んで頂いております。大変感謝しております。ありがとうございます。ただ今の要望につきましては、利用者が倍近くに増えたというように報告があったと思いますが、利用者の要望についてどういうふうに対応できるのか、どういうふうに汲み取っていくのか、事務局の方で検討させて頂いて、できればこの協議会の方にまた案として提示できればと思っております。よろしくお願ひ致します。</p> <p>ただ今4事業者様からご報告頂きましたけれども、これ以外でご出席の方々から何かご報告事項なり、ご提案事項等ありましたらお願ひしたいと思います。</p>

金子委員	<p>ちょっと先に戻りますが、JRの小林様から6月29日に象潟に牡蠣を食べにくるとお話ありましたが、その時に象潟の婦人会が象潟の駅のホームでにかほ音頭を踊って皆様をお見送り致します。</p>
小林委員	<p>そうですか。ご協力ありがとうございます。</p>
本田会長	<p>素敵なことで、よろしくどうかお願い致します。 その他、何かございますか。 特にないようであれば、これを持ちまして第1回目のにかほ市地域公共交通活性化協議会を終了したいと思います。お帰りの際は、充分お気をつけてお帰り下さいますようお願い致します。本日は大変ありがとうございました。</p>
委員	<p>ありがとうございました。</p>

(午後3時01分閉会)